みやざきグローバルプラン改定の方向性

【資料３】

成果指標の状況

指標	参考値（R1実績）	策定時現況値	R5実績	R6実績	R7実績	目標値（R8）
①輸出額（年）	1,824億円	1,961億円（R3）	1,791億円	2,141億	2,456億円	2,275億円
②農林水産物・食品の輸出額（年）	117.4億円	187.5億円（R3）	199.6億円	219.0億円	249.4億円	210億円
③輸出に取り組む企業・団体数（年）	178社	185社（R3）	195社	197社	187社	210社
④外国人延べ宿泊者数（年）	33万人	1万人（R3）	11万6千人	21万3千人	26万3千人	36万人
⑤国外からのクルーズ船寄港回数（年）	11回	0回（R4）	14回	14回	17回	50回
⑥外国人住民が暮らしやすいと感じる割合	88.9%	92.2%（R3）	95.9%	98.0%	95.2%	100.0%
⑦外国人や外国の文化・習慣などに対する偏見や差別があると感じる県民の割合	19.1%	10.3%（R4）	10.6%	11.5%	13.3%	0.0%
⑧外国人や外国の団体との交流・国際協力に関する行事・活動に参加したことのある県民の割合	13.8%	14.0%（R4）	14.8%	14.1%	14.3%	20.0%
⑨県民のパスポート所有率	12.4%	8.5%（R4）	8.2%	8.2%	9.0%	14.0%

現状分析

成果指標の達成状況分析

輸出・海外展開	○全体の輸出額及び農林水産物・食品の輸出額については目標値を達成。 ○輸出額及び輸出に取り組む企業・団体数は、増加傾向にあるも目標値に届かず。
インバウンド	○回復傾向にあるがコロナ禍前の水準には戻っていない。
多文化共生国際交流	○外国人や外国の文化・習慣などに対する偏見や差別があると感じた割合は増加傾向にある。 ○国際交流等の行事・活動に参加したことのある県民の割合は目標値に届かず。

課題抽出

改定に向けた課題

⇒国内市場が縮小する中で、戦略的な取組による海外市場のさらなる取り込みが必要
⇒輸出に取り組む県内企業等の育成

⇒戦略的なプロモーションや海外市場に販売可能なコンテンツの造成等が必要

⇒外国人住民等への生活意識やニーズ等の把握
⇒外国人と県民の相互理解を深める共生意識の醸成
⇒外国人及び県民同士の交流機会の創出
⇒多様な分野・主体における交流促進等による裾野の拡大

社会経済情勢の変化

○世界人口の増加と国内の急激な人口減少

○グローバル経済の不確実性の増加

○**生産年齢人口減少に伴う労働力不足**

→年少人口(０～１４歳）と生産年齢人口（１５～６４歳）は令和２年から令和５２年にかけて、合わせて3,680万人減少
→県内で就労する外国人数は１０年間で約4.6倍の増（令和７年１０月末時点）

○外国人住民の増加と多様化

○デジタル化・先端技術の進展

次期プランの構成

大きな方向性は継承しながら、社会経済情勢の変化等を踏まえた改定を実施。
左記情勢の変化を踏まえ、新たに外国人材関連の柱を追加。

4本柱で構成

- 施策Ⅰ　グローバル経済交流の強化
- 施策Ⅱ　外国人材の確保と定着・育成支援
- 施策Ⅲ　多文化共生社会づくりの推進
- 施策Ⅳ　国際交流や人づくりを通じた海外とのつながりの拡大・深化